

平成 27 年 7 月 15 日

各 位

株 式 会 社 ア ク ロ デ ィ ア
 代 表 取 締 役 社 長 堤 純 也
 (コード番号：3823 東証マザーズ)
 問 合 せ 先： 取 締 役 副 社 長 國 吉 芳 夫
 電 話 番 号： (0 3) 5 7 9 3 - 1 3 0 0

特別損失の計上及び業績予想の修正並びに役員報酬の減額に関するお知らせ

当社は、特別損失の計上及び平成 27 年 4 月 10 日公表の平成 27 年 8 月期の通期業績予想の修正に関して、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 平成 27 年 8 月期第 3 四半期における有価証券評価損（個別）

当社が保有する有価証券のうち、実質価額が著しく下落し、その回復可能性があるとは認められないものについて、平成 27 年 8 月期第 3 四半期において減損処理による有価証券評価損を以下のとおり計上いたします。

	単体
平成 27 年 8 月期第 3 四半期会計期間（平成 27 年 3 月 1 日から平成 27 年 5 月 31 日まで）の投資有価証券評価損及び関係会社株式評価損の総額（= A - B）	52 百万円
(A)平成 27 年 8 月期第 3 四半期累計期間（平成 26 年 9 月 1 日から平成 27 年 5 月 31 日まで）の投資有価証券評価損及び関係会社株式評価損の総額	52 百万円
(B)直前四半期（平成 27 年 8 月期第 2 四半期）累計期間（平成 26 年 9 月 1 日から平成 27 年 2 月 28 日まで）の投資有価証券評価損及び関係会社株式評価損の総額	-百万円

※四半期における有価証券の評価方法は、切放し法を採用しております。

※当社の決算期末は、8 月末日です。

(2) 貸倒引当金繰入額（個別）

当社連結子会社である Acrodea Korea, Inc.への貸付金に対して、貸倒引当金繰入額 233 百万円を計上いたします。

(3) 減損損失（連結）

当社連結子会社である Gimme Corporation の株式取得に伴い連結財務諸表に計上したのれんの減損損失 26 百万円を計上いたします。

2. 今後の見通し

上記投資有価証券評価損、関係会社株式評価損、及び貸倒引当金繰入額は、平成 27 年 8 月期第 3 四半期決算において特別損失として個別業績に計上いたします。なお、当該関係会社株式評価損 32 百万円及び貸倒引当金繰入 233 百万円については、連結上は消去されます。

3. 平成 27 年 8 月期通期業績予想の修正（平成 26 年 9 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日）

個別業績

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	2,026	36	25	16	1.22
今回修正予想 (B)	1,419	△523	△537	△829	△61.27
増減額 (B-A)	△607	△559	△562	△845	
増減率 (%)	△30.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 8 月期)	1,669	△254	△259	△135	△11.15

連結業績

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	2,487	11	7	4	0.34
今回修正予想 (B)	1,441	△771	△771	△759	△56.11
増減額 (B-A)	△1,046	△782	△778	△763	
増減率 (%)	△42.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 8 月期)	3,204	△387	△386	△430	△35.53

4. 修正の理由

個別業績につきましては、新たなソーシャルゲームやアプリの配信を複数開始しコンテンツサービスの拡充を図るとともに、「モバイル BaaS」(※1)や「インターホン向け IoT(※2)システム」といった今後の成長を見込んだ新規の事業展開を積極的に行っておりますが、ソーシャルゲームや新規サービスにおいては、顧客ニーズに合わせさらなるサービス充実を図る必要が生じ、追加開発を行ったこと等により当第 3 四半期での市場展開が遅れ、業績寄与が下回る結果となりました。これにより、平成 27 年 4 月 10 日付の前回業績予想の修正を行った時点において当下期に増加を見込んでいた売上計画を見直し、607 百万円下回る見込みといたしました。

利益面につきましては、上述の売上高の未達と、国内で展開中の一部ソーシャルゲーム及び新規サービスにおける第 3 四半期までの業績結果に鑑み、当第 3 四半期においてソフトウェア資産の収益性による評価を見直しソフトウェア償却費 84 百万円を追加計上いたしました。これらの結果、営業利益が 559 百万円、経常利益が 562 百万円下回る見込みとなりました。また、当期純利益につきましては、上記「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり、平成 27 年 8 月期第 3 四半期会計期間に投資有価証券評価損 19 百万円及び関係会社株式評価損 32 百万円、当社連結子会社への貸付金に対する貸倒引当金繰入額 233 百万円を特別損失として計上することから、845 百万円

下回る見込みです。

連結業績につきましては、韓国 SNS プラットフォームのサービスにおいて当第3四半期に本格展開の一環として韓国スターの参加を予定しておりましたが、その調整に時間を要し、サービス認知度向上と利用者獲得施策に遅れが生じる結果となりました。これにより、当該売上が計画を下回ったこと及び上述の個別業績の計画差異により、連結売上高は1,046百万円下回る見込みです。

利益面につきましては、韓国子会社においてコストコントロールを図っておりますが、上述の連結売上高減少により、営業利益は782百万円、経常利益は778百万円下回る見込みです。また、当期純利益は、上記「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり関係会社株式評価損32百万円及び貸倒引当金繰入233百万円については、連結上は消去されますが、投資有価証券評価損19百万円及び当社連結子会社である Gimme Corporation の株式取得に伴い連結財務諸表に計上したのれんの減損損失26百万円等を計上し、763百万円下回る見込みです。

※1 モバイルBaaS

モバイル Backend as a Service とは、スマートフォンアプリの開発に必要な汎用的機能をAPI、SDKで提供しサーバー側のコードを書くことなく、サーバー連携するスマートフォンアプリを効率よく開発できるようにするクラウドサービス。

※2 IoT

モノのインターネット(Internet of Things)。

従来は主にパソコンやサーバー、プリンタ等のIT関連機器が接続されていたインターネットにそれ以外の、各種家電製品、生活環境などの情報を取得する各種のセンサー等、さまざまな"モノ"を接続する技術。

5. 役員報酬の減額

当社は、平成27年8月期業績予想の下方修正を真摯に受け止め、その経営責任を明確にするため、以下のとおり常勤取締役の役員報酬の減額を実施することといたします。

(1) 取締役報酬の減額内容

代表取締役社長	月額報酬の30%を減額
取締役副社長	月額報酬の20%を減額
常勤取締役	月額報酬の10%を減額

(2) 対象期間

平成27年7月から平成27年12月まで

以 上